

単元名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【読む（詩）】 朝のリレー	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
【書く】 書き留める/言葉を調べる		「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。	進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。
Ⅰ 学びをひらく 【読む（物語）】 はじまりの風	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →図などを使って、心情の変化を整理している。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。	場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
季節のしおり 春	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ） →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
【話す】 話の構成を工夫しよう	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。（A(1)イ）	話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。

		→聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ） →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。	
2新しい視点で 【読む（説明）】 ダイコンは大きな根？	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。（C(1)ア） →「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。	文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
【読む（説明）】 ちょっと立ち止まって	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →筆者の主張と事例との関係を整理している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。（C(1)ア） →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。	進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
【書く】 情報を整理して説明しよう	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを	集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。

		意識して文章の構成や展開を考えている。 (B(1)イ) →わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。	
3 言葉に立ち止まる 【読む（詩・解説）】 空の詩 三編	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。	詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
【読む（解説）】 比喩で広がる言葉の世界	比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。	進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
情報×SDGs 情報収集の達人になろう	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →考えを述べる際に、その考えを支える理由や事例が必要なことを理解している。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインタ	引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書くようとしている。

	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本やインターネットで調べた情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方を理解している。	ーネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。((C1)オ) →読み取った情報を基に、自分の考えを書いている。	
季節のしおり 夏	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

1 年 2 学期

国語科 評価規準表

彦根市立南中学校



単元名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 心の動き 【読む（物語）】 大人になれなかった弟たちに…	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。((C1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。	登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
【読む（小説）】 星の花が降るころに	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。	「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。((C1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。	進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
【書く】項目を立てて書こう 〔推敲〕読み手の立場に立つ	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。((B1)ア)	必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。

	し、案内文の作成に生かしている。	→伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えて書いている。	
【話す聞く】 聞き上手になろう	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。	進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
5 筋道を立てて 【読む(記録)】 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。	「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。	文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
【書く】 根拠を明確にして書こう	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。	「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。 「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見	根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。

		いだししている。(B(1)オ) →読み手の助言をもとに、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、よい点や改善点を見いだししている。	
【読む】 聴きひたる 大阿蘇	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。		進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
季節のしおり 秋	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心にふれる 【読む(古文)】 古典の世界 音読を楽しむ いろは歌	古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ) →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。		積極的に古文を繰り返して音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
【読む(古文)】 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →音読に必要な文語のきまり、古文特有	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを	進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。

	のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。	深めている。	
【読む（漢文）】 今に生きる言葉 【書く】 故事成語を使って体験文を書こう	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解して音読している。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味で使われるようになったか説明している。 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。（B(1)イ） →故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。	積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
7 価値を見いだす 【読む（意見）】 「不便」の価値を見つめ直す	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →情報の整理のしかたを理解し、本文を要約したり引用したりしながら、自分の考えをまとめている。	「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。（C(1)ウ） →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →文章を読んで理解したことに基づいて筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見を書いて	必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。

		いる。	
【話す聞く】 [話し合い(進行)]進め方について考えよう 話題や展開を捉えて話し合おう	意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →根拠を述べたり、前の人の意見を受けたりして話すことを理解している。	「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →動画を視聴し、話題や展開を捉えながら話し合うための工夫について、自分の考えをまとめている。	進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめている。
季節のしおり 冬	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。		伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
【話す聞く】 話題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる	意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている	「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。	積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。

1 年 3 学期

国語科 評価規準表

彦根市立南中学校



単元名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8 自分を見つける 【読む(小説)】 少年の日の思い出	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 「読むこと」において、文章を読んで理	文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。

		解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(I)オ) →登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(I)ウ) →読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。	
【読む（随筆）】 二十歳になった日	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(I)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(I)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。	進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
【書く】 構成や描写を工夫して書こう	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(I)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。	「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(I)イ) →読み手が状況をイメージできるよう、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(I)ウ) →体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書き出しや結び、描写を工夫して	粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。

		いる。	
【話す聞く】 【書く】 一年間の学びを振り返ろう	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 ((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすく資料にまとめている。	「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 (A(1)ウ) →聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) →「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。	集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
【読む（詩）】 ぼくが ここに	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ((1)オ) →詩に用いられている表現の技法を理解している。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 (C(1)オ) →表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。	積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
学びを深める 国語の力試し	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ((1)オ) →比喩の表現技法を理解し、使っている。 音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。 ((3)ア) →音読に必要な文語のきまりについて理解している。	「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 (C(1)ア) →本文中の「発酵」の説明を適切に抜き出している。 「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 (C(1)エ)	今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。

		→擬人法の表現の効果について、本文に基づいて書いている。 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。（A(1)オ） →「山登りのルートについて」の話し合いの展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。 「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） → 案内文で、項目ごとに伝えたいことを整理して明確に書いている。 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。（B(1)エ） → 小学六年生を想定して、わかりやすい表現に書き換えている。	
--	--	--	--